

婦 人 科

1. スタッフ

科長（兼）教授 木村 正

その他、産科及び婦人科として、准教授 1 名、講師 3 名、助教 16 名、医員 39 名、病棟事務補佐員 1 名、外来事務補佐員 1 名

（兼任を含む。また、助教は特任を含む。）

2. 診療内容

(1) 婦人科疾患診療：

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、外陰癌、絨毛性疾患などすべての婦人科悪性疾患、子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮内膜症、卵巣嚢腫などの良性疾患、性器脱や尿失禁といった機能性疾患に対応している。当科の特色として、以下の点が挙げられる。

- 1) 卵巣癌に対して、他科との協力のもと積極的手術療法を行い、進行期癌Ⅲ期に対する 5 年生存率において約 50%と好成績を得ている。
- 2) 再発子宮頸癌に対して化学療法や組織内照射を用いて良好な成績を収めている（組織内照射における局所制御率 80%）。照射野内再発にも手術を実施し好成績を収めている。
- 3) 進行子宮頸癌症例に対して、化学療法・手術療法を組み合わせた集学的な治療を行い好成績を得ている。
- 4) 妊孕性温存が可能な初期子宮頸癌に対して広汎子宮頸部摘出を行っている。
- 5) 早期子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術を行っている。
- 6) 子宮体癌に対して積極的に腹腔鏡下手術を行っている。また、先進医療として腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清を実施している。
- 7) 子宮筋腫に対して筋腫核出術（開腹、腹腔鏡）や子宮動脈塞栓術による子宮温存法を積極的に実施している。
- 8) 画像診断で良性と判断した卵巣腫瘍に対して積極的に腹腔鏡下手術を行っている。
- 9) 子宮内膜症の治療として、手術療法や低用量ピルの使用など、国際標準に沿った治療法を選択している。
- 10) 子宮体癌手術を主としてロボット支援下手術を行なっている。

(2) 生殖・内分泌疾患：

一般の不妊・不育治療から体外受精・胚移植および顕微受精などの高度生殖医療、また、妊娠前カウンセリングや、癌患者などの医学的適応による妊孕性温存まで含めて総合的に不妊治療を行っている。多胎妊娠

の防止を意識した排卵誘発や生殖補助医療を行っている。また、子宮筋腫や子宮内膜症が不妊症の原因と考えられる場合、子宮鏡下手術や腹腔鏡下手術、開腹手術など積極的な外科治療を加える方針をとっている。不育症患者に適切な検査による原因検索と今後のカウンセリング、治療を行っている。また悪性腫瘍治療前に妊孕性温存のための卵子凍結（未受精卵を含む）を行なっている。健康維持外来では高脂血症・動脈硬化・骨粗鬆症などの全身的な観点からホルモン補充や他の薬剤使用の適否を検討し、中高年女性のトータル・ヘルス・ケアに努めている。また婦人科悪性腫瘍治療後サバイバーの骨粗鬆症予防のための精査、加療も積極的に行っている。思春期外来では女性としてのトータルな発育、発達が得られるように治療・カウンセリングを行っている。また、先天性疾患のための解剖学的異常（膣閉鎖）に対する造膣術も行っている。

3. 診療体制

外来は 2 名の助教以上のスタッフがその日の初診患者、妊娠初期の患者、並びに婦人科再診患者を担当している。すべての内診台に経膣超音波断層装置が準備されており、内診とともに直ちに画像診断による情報が得られ、診断精度向上に寄与している。当科では、婦人科のあらゆる分野において専門外来を実践するスタッフがそろっている。専門外来の日程とその主に担当する診察内容は次のようになっている。

(1) 月曜日

- 1) 腫瘍外来：コルポスコープを用いて主に子宮頸癌とその前癌病変の精密検査を行う。
- 2) 生殖医療センター：不妊治療に生殖補助医療が必要な患者のための外来である。
- 3) 健康維持外来：更年期障害、骨粗鬆症など更年期、老年期に起こる様々な問題を扱う。
- 4) POP 外来：子宮脱、膀胱脱、過活動膀胱など骨盤底の脆弱化に伴い出現する諸疾患に対して、正確な診断及び手術を含む治療を行っている。

(2) 火曜日

女性研究者サポート外来：大阪大学学内に勤務する女性研究者の妊娠・出産サポートのための妊婦検診・婦人科診察を行っている。

(3) 水曜日

- 1) 放射線外来：婦人科癌の放射線治療を当科医と放射線科医が共同で行う。

(4) 木曜日

- 1) 思春期外来：無月経や月経不順、第 2 次性徴の遅

れなどの思春期に特有な問題を持つ患者のための外来である。なるべく内診をしないなどの配慮を行っている。

- 2) UAE (子宮動脈塞栓術) 外来：放射線科と共同で子宮筋腫を切らずに治す UAE を希望する患者の対応、治療方針の決定を行っている。

(5) 金曜日

- 1) 健康維持外来：月曜日に同じ。
2) 生殖医療センター：月曜日に同じ。

(6) 特殊検査日程

検査はすべて外来担当医を通じた予約が必要である。
月～金：超音波断層法 (年間約 5,000 件)、月・金：子宮卵管造影、月～金：精液検査、フーナー (性交後) 検査、月：コルポコープ検査、火：子宮鏡検査、レーザー治療、月～金：骨密度測定 (デキサ法)。

		1 部診	2 部診	特殊診
月	午前	初診	初診	腫瘍外来 生殖医療センター 健康維持外来 骨盤底 (POP) 外来
	午後	再診	再診	
火	午後	初診	初診	女性研究者サポート外来 子宮鏡 レーザー治療
		再診	再診	
水	午後	初診	初診	放射線外来
		再診	再診	
木	午後	初診	初診	思春期外来 UAE (子宮動脈塞栓術) 外来
		再診	再診	
金	午後	初診	初診	生殖医療センター 健康維持外来
		再診	再診	

4. 診療実績

初診、再診を合わせて、昨年度の 1 日平均外来患者数は 118 名であった。

手術は月曜日から金曜日まで毎日行っている。月、火、木曜日に麻酔科管理下に全身麻酔手術を、水、金曜日に自科管理で小手術を行っている。昨年度の年間手術件数は以下に詳細を示すとおり、606 (子宮悪性腫瘍手術の 52% は内視鏡手術)。

婦人科手術件数 (手術部使用)	606 件
広汎子宮全摘術	31 件
腹腔鏡下子宮全摘術 (TLH)	112 件
(内訳)	
子宮頸癌手術	47 件

(うち広汎子宮全摘術)	(25 件)
(うち広汎子宮頸部全摘術)	(2 件)
(うち腹腔鏡下広汎子宮全摘術)	(11 件)
子宮体癌手術 (子宮肉腫含む)	99 件
(うち腹腔鏡下子宮体癌手術)	(65 件)
卵巣悪性腫瘍手術	67 件
卵巣境界悪性腫瘍手術	3 件
外陰手術	2 件
他の悪性手術	11 件
CIN (AIS を含む)	71 件
(うち TLH)	(14 件)
(うち円錐切除術)	(54 件)
子宮内膜全面搔爬術 (D&C)	64 件
良性付属器手術	108 件
(うち腹腔鏡)	(80 件)
良性子宮手術 (内膜増殖症含む)	84 件
(うち腹腔鏡)	(22 件)
性器奇形に対する手術	7 件
子宮鏡下手術	27 件
その他	16 件

放射線治療総数	85 件
化学療法症例数 (外来含む)	233 件
子宮筋腫動脈塞栓術	33 件
体外受精・胚移植 (ICSI を含む)	134 件

5. その他

日本産科婦人科学会専門医施設

日本婦人科腫瘍学会修練施設

日本婦人科内視鏡学会修練施設

日本生殖医学会認定研修施設

日本産科婦人科学会専門医 51 名

日本婦人科腫瘍学会専門医 6 名

日本がん治療認定医 12 名

日本産婦人科内視鏡学会技術認定医 2 名

日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医 1 名

日本生殖医学会生殖医療専門医 1 名